

安倍政権を揺るがす森友学園の国有地売却と加計学園の獣医学部新設をめぐる「モリカケ問題」。「記憶の限りでは……」「刑事訴追の恐れがありますので……」。国会の証人喚問や報道への釈明で官僚たちが繰り返す言葉は、「今年の流行語大賞だ」との陰口も出ている。

加計学園問題をめぐり、五月一〇日の国会で参考人招致された元首相秘書官の柳瀬唯夫・経済産業省審議官は、学園関係者との面会を認めた。首相秘書官時代の答弁を一転させたが、安倍首相の関与については「首相へ報告したことも、指示されたこともない」として否定した。

こうした官僚たちの頑なとも言える「安倍首相擁護」の姿勢の背景の一つと指摘されているのが、官邸による官僚の人事支配だ。内閣人事局ができたのは第二次安倍政権の時の二〇一四年。省庁の縦割りの弊害をなくすとともに、官僚依存から脱却して、政治主導を進めることが狙いのはずだったが、その副作用は小さくなかった。

◇ ◇  
モリカケ問題をめぐる官僚たちの一連の言動を見ていて、かつて、自民党幹部だった国会議員の一人から聞いたことを思い出した。その議員は「官僚をどう手なずけるかは人事次第だ」と話し、田中角栄元首相

## 忖度は「公」か、「私」か

のエピソードを紹介した。

田中元首相は、通商産業相（現在の経済産業相）を務めていた際、官僚の一人がある施策を熱心に説明してきたという。田中元首相はその施策に賛意を示し、その後に、その施策を担当する人事異動を発令した。周囲からは事実上の左遷に見えたといひ、通産省内では、田中元首相にもの言う官僚が影を潜めたという。

◇ ◇  
数年後、この議員は、初入閣を果たした。間もなくして断行したのが幹部の一新だった。内定していた人事案をひっくり返した。議員とそりが合わなかったとされる事務次官を交替させ、議員の意向に忠実でなかったという幹部は外郭団体へ異動となった。次期事務次官の最有力候補と言われていた幹部は当時、この議員について「官僚のどこをどう押せば、言うことを聞くかを知っている」と漏らしていた。

◇ ◇  
安倍政権が目指した「政治主導」「官僚依存からの脱却」の方向性は間違っていない。だが、官僚に事実上の虚偽証言をすらすらとやらせ、国民の批判を浴びて支持率が低下すると、「うみを出し切る」と人ごとのように官僚批判を強める。これは、官僚への責任転嫁以外の何者でもない。

◇ ◇  
ことここに至っても、官僚からの「告発」

「反乱」は前川喜平・元文部事務次官しかない。その前川氏も、事務次官を辞めたいなかったら、今の行動を起こせたかどうか分からない。

「小人は己を利せんと欲し、君子は民を利せんと欲す。己を利するものは私、民を利するものは公なり。公なる者は栄え、私なる者は亡ぶ」。NHKで放送中の大河ドラマの主人公、西郷隆盛の言葉だ。

◇ ◇  
安倍首相と関係が深い一部の人物・団体に便宜を与えていないか。国民の不信の目が向けられているのは、安倍政権の「公平性」への疑念だ。西郷の言葉を借りるなら、安倍首相は「小人」か、「君子」かが問われている。

◇ ◇  
口を閉ざす官僚たちが守るべきのは、「国民」ではなく、「安倍首相」なのだろうか。安倍政権の支持率は急降下し、政権維持の危険水域とされる三割前後を行き来している。来春の統一地方選と来夏の参院選を控える中、今年九月に自民党総裁選が行われる。既定路線のように見えた三選の行方は険しくなってきた。安倍首相が栄えるのか、滅ぶのか。その答えが出る日は近づいている。

◇ ◇  
ハ洋